琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.32
2015. August

発行者　琉球病院事務部長
吉永　可公

院　長

福治康秀（ふくじ　やすひで）
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。

基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

ちゃーびら祭

琉球病院では入院患者さんの療養環境に彩りを添え療養生活に対する取組を積極的にして頂く為に、毎年病院主催の三大祭として「ちゃーびら祭・盆踊り・ダンスパーティ」を行事委員会で計画・開催しております。

今年度最初の祭として年6月１１日に「ちゃーびら祭」が、あしびなぁ体育館で行われました。

職員による優雅な琉球舞踊「かぎやで風」から始まり、琉星保育園の園児による可愛らしいダンス等で会場全体が癒されました。

また西病棟利用者による太鼓クラブやデイケア利用者によるダンスなどで午前の部は多いに盛り上がりました。

午後の部では、ボランティアグループによる勇壮な太鼓や多彩な踊りで楽しいひとときをすごすことができました。

また各病棟代表によるカラオケ大会では、歌に合わせて手拍子も聞かれ会場全体が一体感に包まれ素晴らしい時間が共有できたと思います。

1位から3位までの表彰式もあり、参加者からは満面の笑みで来年も参加して賞を取りたいとのコメントも聞かれました。

行事委員会として、患者さんの生活の質の向上・治療への意欲を高める・患者さんと病院スタッフが協力する事で病院の一体感を高めることを掲げており、今後も行事委員一同、皆様の協力を頂きながら楽しい行事が提供できるように活動したいと思います。

看護師　　當眞　嗣敏

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

精神科病棟	181床
認知症	50床
アルコール	54床
児童思春期ユニット	4床
重症心身障がい	80床
医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

●アクセス
路線バス／那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自 動 車／那覇市から40分
沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

●病棟等建替整備の動き
進捗状況　本体工事：請負業者　電気設備　・・・・・・　(株)九電工
機械設備　・・・・・・　(株)三建設備工業
建築(第２期)工事　・・・　(株)淺沼組
新病棟（第１期工事）完成・・・・　平成27年７月

教育・研修

●琉球病院盆踊り大会
日時：平成27年8月21日　金曜日　18時～ 20時　　場所：琉球病院玄関前駐車場(雨天：体育館)

●第2回　平成27年度児童・思春期アルコール関連問題研修会
日時：平成27年8月６日　木曜日　8時30分～ 17時00分　場所：琉球病院研修棟3階研修室
対象：行政関係職員、学校関係職員、警察関係職員等

地域医療連携室だより

今年7月に新病棟が開棟しました。3階建ての病棟になり、１階病棟は、男女混合の急性期病棟、２階病棟は治療抵抗性統合失調症に有効なクロザピン治療の専門病棟、３階病棟は、認知症病棟としてより専門的な治療が行える体制が整いました。

内覧会の様子が新聞を通して紹介され、「病棟を見学できますか。クロザピンの治療について話を聞きたいです」等の問い合わせも数件ありました。

今後も、当院の専門であるアルコール依存、児童・思春期、認知症、一般の精神疾患に適切な対応ができるようより充実した取り組みを行い、地域のニーズに応えられるよう発展をしていきたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。

空床状況　7月29日現在

精神科病棟	認知症	アルコール	児童思春期ユニット
10床	3床	10床	2床

※ 入院予約に関するお問い合せは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17:15（土・日・祝日以外）
TEL：098－968－2133（代）
内線：231・234
FAX：098－968－7370
地域医療連携室直通

〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目のクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例は140例になりました。平成27年6月の新規のCLZ導入は1例でした。この例は当院に長期入院中で月に2回程度のメインテナンスのm-ETCを４年以上行ってきましたが、CLZ導入後はm-ETCも終了することができました。重度の精神症状を持った患者様の病状がCLZ治療により改善しており、退院する例も60例を超えています。週に3回の専門外来も行っていますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、m-ECT（修正型電気けいれん療法）による治療を行っております。平成27年6月の治療実績は4例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

7月3日（金）に静岡県立こども病院の山崎透先生（児童精神科医）を講師にお招きし、不登校の子どもの支援に関する研修会を開催しました。山崎先生には『不登校の理解と支援』と題し、不登校現象の経過と理解の仕方、支援のスタンスや要点について、具体的な例を交えながらわかりやすく解説して頂きました。参加者は、医療、教育、福祉と多岐の領域にわたり、定員を大幅に上回る85名の参加となりました。アンケートからも受講者の満足度は非常に高く、充実した研修会になりました。なお、この研修会は、沖縄県子どもの心の診療ネットワーク事業で開催しました。当院では、今後も子どもの発達や思春期臨床に関する研修会を定期的に開催していく予定です。研修会の案内は琉球マンスリーや当院のホームページに掲載していきますので、興味関心のある方はぜひご参加ください。

認知症医療

琉球病院では現在、認知症の確定診断と治療に力を入れて取り組んでいます。これは認知症になった人だけを対象に医療を提供している事になります。しかし、認知症も含めてすべての病気に言えることは、まず予防、そして病気になったら悪化させない事です。認知症も、予防や症状の進行を遅らせる「認知リハビリテーション」が、健康保険適用の治療として認められています。

当院でも、認知症を予防するための取り組みを準備中です。「認知リハビリテーション」を来年度から実施する予定です。「認知リハビリテーション」の対象となる人は、物忘れが気になる程度の普通の人です。まず、外来を受診し、気になる物忘れが他の病気から来る症状でないか確定診断をします。他の病気から来たものであれば、原因となっている疾患を治療すれば、物忘れは無くなります。また、病院へ来てリハビリをしなくても大丈夫な人には、自宅での生活上の注意点をお話しします。「認知リハビリテーション」が必要な人は自宅から通い、外来でリハビリを行うことになります。

当院で提供する医療の中に、認知症の治療とともに予防的な取り組みも取り入れていきたいと思っています。

重症心身障がい児医療

今月も重症心身障がい病棟内での出来事から。Sさんは、疎通が困難な場合もありますが、身近な職員等との簡単な言葉でのやり取りが可能な方です。ただ自傷や多動など行動障害が著明で、そのケアのために当病棟に入院されています。とある日のこと、テレビをジッと見ているSさん。画面では、緑のTシャツを着たふくよかな男性がひざまづき、女性にプロポーズをしている場面が流れていました。それを見てSさんが一言、「大きなカエルがいるね」。それを聞いた女性職員は大笑いでしたが、よくよく考えるとSさんは、大変失礼なことを言っています。これ以外にもSさんの言動には周りを笑わせるユーモアがあります。Sさんが風邪をこじらせ点滴治療中の時には、お腹が空いたのでしょうが、「タクシーで糸満の沖縄そば食べに行こう」と通りかかる職員皆に訴えていました。このように憎めないSさんは、職員からも人気者です。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では6月現在、外来通院の患者様72名、入院中の患者様12名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

去った平成27年6月2日（火）、平成27年度第11回アルコール関連問題地域職員研修会を終日をかけて開催致しました。行政の保健師以外にも、那覇地方裁判所からも参加頂き、医療のみならず多方面へとの連携の輪が広がっていることへ感謝致します。平成27年8月6日には、未成年の飲酒問題対策の研修会を開催致します。こちらも、石垣島、宮古島からのお申込みや、定員を超える申し込みを頂いております。今後も、これらの研修会を通して、当院と地域の関係者の皆様と顔が見える関係を作っていきたいと思います。

包括的地域精神医療（ACT）

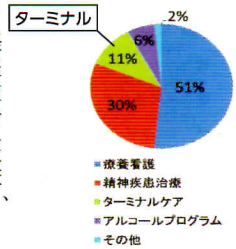
重い精神疾患を抱えた患者様や、就労を希望する方を支援しています。現在、3名の支援を実践しています。1名の対象者はパートではありますが、就労して半年が経過しました。1名の対象者は、退院後作業所への移行を目標に内服の管理や、生活リズムを安定化を図っています。もう1名は、なかなかステップアップはできませんが、2年間入院をせず、デイケアや訪問看護を受け、最近は、家の畑の手伝いを頑張っています。

それぞれの対象者が歩む一歩は、その方の状況で違いはありますが、小さな一歩を大事にしながら対象者と共に歩んでいきます。

臨床研究部活動状況

【NSTと病棟連携　統合失調症を有する終末期がん患者のニーズを考慮した栄養サポート】栄養課　赤坂さつき

当院はH25年9月から栄養サポートチーム(以下NST)が稼動しました。NSTと病棟連携によって最期まで経口栄養管理を継続できた「統合失調症を有する終末期がん患者のニーズを考慮した栄養サポート」について報告します。H26年9月までに介入した64名の割合は男性58％、女性42％、全体の平均年齢64才。診断名は認知症34％、統合失調症34％、精神発達遅滞16％、アルコール依存症11％の順で多かったです。NST介入時点での対象者の治療内容は、療養看護51％、精神疾患治療30％、ターミナルケア11％、アルコールプログラム6％、全NST介入者の11％が「ターミナル」でした。介入した事例を通して、患者のニーズを考慮した栄養サポートを実施するには、精神症状・疼痛管理に留意し1）摂食機能・嗜好にあわせた食事、2）食事摂取状況のモニタリング、3）心理・全身状態の変化に寄り添う対応、4）多職種連携などが重要と考えられました。



〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370